

観察会報告

黒川自然観察会

横山謙二



黒川で見られるアゲハチョウの説明をする様子

2026年5月16日(土)9時30分より、毎年恒例の興津川支流黒川にて自然観察会を行いました。幸い天気もよく、23名の方が集まりました。

観察会は、まず黒川自然園内の観察から始めました。

自然園と駐車場を流れる小川では、モンキアゲハなど多くの蝶が給水していました。ここでは、あまり見ないミヤマカラスアゲハも観察できました。

私は、ふだんあまり見ない生き物を求めて自然園の池の中を網で探りました。一番の目当てはヤゴでしたが、この池ではヌマエビとカワニナ(貝)、外来種のアメリカザリガニ、カダヤシ(魚)しか採集できませんでした。採集方法が悪いのか、目当てのヤゴはもちろんですが他の水生昆虫がまったくとれませんでした。しかし、ここのような里山でも、メダカではなく、外来種のカダヤシがいっぱいとは驚きました。

ところで驚いたことといえば、いつもノアザミの花で吸蜜をしに集まるチョウがほとんどいなかったことです。ノアザミは例年どおり咲き、見られたチョウの種類は例年と変わりありませんでしたが、その個体数が非常に少なかったという印象を持ちました。これはチョウだけでなく、他の昆虫にも言えることでした。その原因を、案内者の人たちと話してみたところ、多くの意見として開催日が1



アカボシテントウ幼虫と蛹がびっしりとついた枝

週間程遅い点があげられました。しかし、1週間程度で、これほど違うものかと、疑問に思います。他にも原因があるのかもしれない。

自然園から黒川キャンプ場に移動しようとした時に、三宅飛鳥さんがアカボシテントウの幼虫・蛹がびっしりとついた枝を見つけました。アカボシテントウはあまり見られないテントウムシなのでこれだけの幼虫がいっぺんに見つかったことに驚かされました(成虫の写真P14掲載)。

その後、黒川自然園から黒川キャンプ場に移動する道すがら昆虫は、あまり見られず、全体的に昆虫が少なかった気がします。

少なくなったのは昆虫だけでなく、観察会の参加人数と案内者の数も急減してきています。私がこの観察会に参加した最初の頃の20年前(2006年)は、静岡昆虫同好会のみなさんが孫を連れ、家族ぐるみでこの観察会に参加していたので、多い時で50名ほどにもなりました。そして20年たち、現在、来られなくなってしまった人や長い距離を歩くのが大変になってしまった案内者も、多くなりました。この観察会だけの問題ではありませんが、そろそろ案内者も世代交代の時期を迎えているのかもしれない。しかし、困ったことに交代する世代も、少ないのも事実です。